



●中華人民共和国 西安実験・実践センター

2020年、新型コロナウイルスの問題がまだ後をひく中、農業関係者（地域を指導する中心人物、省政府の役人等）が「西安実験・実践センター」に集まり、電子機能水の応用について5月16日（土）勉強会が開催されました。



西安実験・実践センターでの勉強会

西安実験・実践センターは全体で100ha（100万㎡）あり、約100万本のリンゴ、さくらんぼ、モモ、ナシ、アンズ、アメリカンチェリーの幼木を生産し、中国全土に出荷しています。

今回は、リンゴ、さくらんぼ、アンズについての勉強会と現地視察でした。



リンゴの幼木



センター長 肖先生



全長 200m のあんずとサクランボハウス



サクランボハウスとあんずハウス



グレード3のサクランボ

中国・陝西省のさくらんぼコンテストで、肖先生のさくらんぼが優秀賞を受賞しました。
全ての項目の検査で合格し、北京に直送する果物として認定されました。

●中国にはこのような実験・実践センターが全国に17カ所あり、中国だけでなく世界中から多くの農業関係者が訪れています。

新型コロナウイルスの影響で、全世界の農業生産は大きく落ち込んでいます。

このような中、同じ面積で通常の1.2~1.5倍の生産量を上げる事ができる「電子機能水農法」は世界中から注目されている画期的な農業生産技術です。

さくらんぼ グレード別の生産
グレード1（中央政府トップクラス向け）
グレード2（省クラスへの贈り物向け）
グレード3（一般向けだが高額）
上記1から3のグレードに対応した生産を電子機能水を利用して生産しています。
葉っぱも実も非常にキレイで、虫などが一切ないです。

肖宝祥 大櫻桃



肖宝祥 大櫻桃

